



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月13日

上場会社名 スペースシャワー-SKIYAKIホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4838 URL https://sssk-hd.com  
代表者 (役職名) 代表取締役共同社長 (氏名) 林 吉人  
代表取締役共同社長 (氏名) 小久保 知洋  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 酒井 真也 TEL 03-6478-2394  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け、個人投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	10,581	18.6	581	△15.0	582	△14.2	323	△23.8
2024年3月期中間期	8,922	17.5	683	986.7	679	176.1	424	97.4

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 358百万円 (△14.0%) 2024年3月期中間期 417百万円 (85.3%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	19.43	-
2024年3月期中間期	50.72	-

(参考) 持分法投資損益 2025年3月期中間期 △0百万円 2024年3月期中間期 -百万円

(注) 2024年3月期中間期の売上高については、会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、遡及適用後の数値を記載しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	16,480	8,258	8,258	8,258	50.0
2024年3月期	8,164	3,941	3,941	3,941	48.1

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 8,236百万円 2024年3月期 3,930百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	10.00	10.00
2025年3月期	-	0.00	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	13.00	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,578	21.3	769	24.4	777	25.5	406	45.1	24.35

（注）直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

なお、会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、売上高の対前期増減率は、遡及適用後の数値により算定しております。

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更： 有

新規 3社（社名）株式会社SKIYAKI、株式会社ロックガレージ、株式会社スペースシャワーネットワーク  
除外 1社（社名）－

（注）詳細は、添付資料8頁「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（3） 中間連結財務諸表に関する注記事項（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記）」をご覧ください。

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料8頁「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（3） 中間連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更に関する注記）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	17,029,205株	2024年3月期	8,811,354株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	306,994株	2024年3月期	416,289株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	16,674,500株	2024年3月期中間期	8,378,269株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	6
中間連結損益計算書 .....	6
中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記) .....	8
(会計方針の変更に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9
(企業結合等に関する注記) .....	11
(収益認識に関する注記) .....	13

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、経済活動の正常化が進み、個人消費の回復やインバウンド需要の拡大の動きなどが見られた一方、金利や為替変動による内外経済の先行きや物価上昇の長期化などの要因もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業に関連する、音楽・エンタテインメント業界においては、各種サービスのデジタルシフトが進み、定額サブスクリプションの音楽配信やライブ・イベント動画配信の普及・定着により、コンテンツのデジタル配信市場が堅調な成長を続けるとともに、デジタルプラットフォームの普及により、グローバルに向けたコンテンツ提供が容易となってきました。ライブ・イベント市場については、動員数においてもコロナ禍以前を上回り、市場環境の回復を超え、拡大の傾向にあります。

このような社会・経済環境の急速な変化に対応すべく、2024年4月1日付で株式会社SKIYAKIとの経営統合に伴い持株会社体制へ移行し、商号を「スペースシャワーSKIYAKIホールディングス株式会社」へ変更いたしました。当社グループでは、株式会社スペースシャワーネットワークと株式会社SKIYAKIの両社の競争優位性と経営課題を相互補完しながら、これまで以上に有益なサービスや、魅力的なコンテンツの提供を実現できると考えており、両社のコンテンツとテクノロジーを掛け合わせたこれまでにない新しいエンタテインメントカンパニーとしての持続的な発展を実現してまいります。

当中間連結会計期間においては、当社主催の大型野外イベントとして、5月18日、19日に幕張メッセ国際展示場9～11ホールで開催した「POP YOURS」、8月30日から9月1日の3日間、山梨県山中湖交流プラザきららにて「SPACE SHOWER SWEET LOVE SHOWER 2024」を開催し、両イベントともに、公演前時点で全券種完売を達成いたしました。「SPACE SHOWER SWEET LOVE SHOWER 2024」については、開催期間中に日本列島に接近、上陸した台風10号の影響により開催が危ぶまれましたが、当日の気象情報を含め、細心の注意を払いながらの運営実施により、公演の一時中断などがあったものの、無事全日程の公演を終えることができました。しかしながら、台風影響による各地の公共交通機関の乱れから、来場自体が困難となるケースが多数発生したことを勘案し、8月30日、31日公演分に関してのチケット払い戻しを実施いたしました。

これらの取り組みの結果、売上高は10,581,647千円と前年同期比1,658,848千円増(同18.6%増)と増収となりました。また、各段階利益につきましては、営業利益は581,273千円と前年同期比102,527千円減(同15.0%減)、経常利益は582,389千円と前年同期比96,768千円減(同14.2%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は323,978千円と前年同期比100,956千円減(同23.8%減)、EBITDAは915,487千円と前年同期比99,280千円増(同12.2%増)となりました。

なお、当中間連結会計期間より、「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」に記載のとおり、会計方針の変更を行っており、遡及処理後の数値で比較分析を行っております。また、当中間連結会計期間より、EBITDAを経営指標として開示しております。EBITDAは、営業利益に減価償却費及びのれんの償却額を加えた金額となります。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、当中間連結会計期間より、株式会社SKIYAKIとの経営統合を機に事業ポートフォリオの再構築を行い、報告セグメントを従来の「メディア」、「ライブ・コンテンツ」及び「ソリューション」の3区分から「コンテンツ」及び「ソリューション」の2区分に変更しております。このため、前中間連結会計期間のセグメント情報についても、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、これまで報告セグメントのセグメント利益は経常利益ベースとしていましたが、営業外損益項目の重要性が乏しくなったことから、当中間連結会計期間より、報告セグメントのセグメント利益を営業利益ベースに変更しております。このため、前中間連結会計期間の報告セグメントのセグメント利益についても、営業利益ベースに変更しております。

セグメントEBITDAは、セグメント利益に減価償却費及びのれんの償却額を加えた金額となります。

#### ①コンテンツ セグメント

ライブハウス事業やエンタテインメントカフェ事業における店舗ビジネスでは、稼働率、来場者数の好調な推移などにより、前年同期比で増収増益となりました。イベント事業においては、5月18日、19日に開催した国内最大規模ヒップホップイベント「POP YOURS」がチケットソールドアウトでの開催となったものの、8月30日から9月1日に開催した「SPACE SHOWER SWEET LOVE SHOWER 2024」では、開催期間中に日本列島に接近、上陸した台風10

号の影響からチケット払い戻しを実施したことにより、増収減益となりました。

この結果、売上高は5,757,145千円と前年同期比478,443千円増(同9.1%増)となり、セグメント利益(営業利益)は539,779千円と前年同期比119,188千円減(同18.1%減)、セグメントEBITDAは672,387千円と前年同期比92,906千円減(同12.1%減)となりました。

## ②ソリューション セグメント

ディストリビューション事業において、音楽配信売上が好調に推移しました。また、プラットフォーム事業において、「Bitfan Pro」及び「Bitfan」を中心としたファンクラブの有料会員数が132.7万人となり、ストック収益であるファンクラブ売上及びフロー収益であるクリエイターグッズ等のEC売上がいずれも好調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

この結果、売上高は4,824,501千円と前年同期比1,180,405千円増(同32.4%増)となり、セグメント利益(営業利益)は74,053千円と前年同期比69,833千円増(同1,654.7%増)、セグメントEBITDAは275,659千円と前年同期比245,359千円増(同809.8%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末における総資産は、建物及び構築物などの有形固定資産(建設仮勘定を除く)が111,725千円減少した一方で、主に株式交換による株式会社SKIYAKIの連結子会社化に伴い、現金及び預金が1,831,949千円、受取手形及び売掛金が2,429,417千円、仕掛品が71,120千円、その他(流動資産)が212,248千円、建設仮勘定が482,501千円、のれんが1,253,100千円、顧客関連資産が1,970,500千円、ソフトウェア仮勘定が53,032千円、投資有価証券が63,593千円、敷金及び保証金が57,534千円、その他(投資その他の資産)が74,714千円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ8,315,504千円増加し、16,480,299千円となりました。

負債は、未払金が56,728千円、賞与引当金が153,835千円減少した一方で、主に株式交換による株式会社SKIYAKIの連結子会社化に伴い、買掛金が1,171,247千円、1年内返済予定の長期借入金が93,448千円、預り金が1,926,820千円、その他流動負債が289,350千円、繰延税金負債が637,437千円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ3,998,638千円増加し、8,221,592千円となりました。

純資産は、主に自己株式を処分したことにより自己株式が45,110千円減少した一方で、株式交換に伴う新株発行により、資本剰余金が前連結会計年度末に比べ4,055,736千円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ4,316,865千円増加し、8,258,707千円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間については、主催イベントにおいて、台風の上陸・接近による公共交通機関の乱れから一部チケット払い戻しを実施したこと等により、前回予想比で減益となりましたが、他の事業が当初見通しより好調に推移しているため、2024年8月9日に公表した通期業績予想に変更はありません。

なお、本日(2024年11月13日)公表しました「構造改革の実施に関するお知らせ」に記載している事項(連結子会社における早期退職募集等)が、2025年3月期の連結業績に与える影響について精査中のため、今後公表すべき事項が生じた場合は速やかにお知らせいたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,123,253	4,955,202
受取手形及び売掛金	1,670,060	4,099,477
商品	53,309	68,559
仕掛品	162,357	233,478
貯蔵品	9,107	10,641
その他	461,506	673,755
貸倒引当金	△59,980	△67,753
流動資産合計	5,419,615	9,973,361
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,411,276	1,229,969
機械装置及び運搬具	12,787	12,787
工具、器具及び備品	823,312	620,911
土地	52,640	52,640
リース資産	3,320	3,320
建設仮勘定	—	482,501
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,515,176	△1,243,193
有形固定資産合計	788,160	1,158,937
無形固定資産		
のれん	—	1,253,100
顧客関連資産	—	1,970,500
商標権	85,522	79,015
ソフトウェア	370,264	347,469
ソフトウェア仮勘定	68,215	121,247
その他	8,891	7,698
無形固定資産合計	532,893	3,779,032
投資その他の資産		
投資有価証券	265,873	329,467
敷金及び保証金	527,960	585,494
繰延税金資産	575,525	525,041
その他	58,269	132,984
貸倒引当金	△4,018	△4,018
投資その他の資産合計	1,423,610	1,568,968
固定資産合計	2,744,664	6,506,938
繰延資産	514	—
資産合計	8,164,794	16,480,299

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,492,443	2,663,690
1年内返済予定の長期借入金	—	93,448
リース債務	743	751
未払金	858,907	802,178
未払法人税等	120,191	142,782
預り金	260,311	2,187,131
賞与引当金	283,817	129,981
役員賞与引当金	21,813	26,913
その他	414,513	703,863
流動負債合計	3,452,740	6,750,741
固定負債		
リース債務	1,081	703
長期借入金	—	33,000
退職給付に係る負債	712,054	741,185
役員退職慰労引当金	26,302	27,749
繰延税金負債	—	637,437
その他	30,774	30,774
固定負債合計	770,212	1,470,850
負債合計	4,222,953	8,221,592
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,763,645	5,819,382
利益剰余金	2,153,034	2,338,875
自己株式	△169,003	△123,892
株主資本合計	3,847,676	8,134,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	82,748	102,250
その他の包括利益累計額合計	82,748	102,250
非支配株主持分	11,416	22,091
純資産合計	3,941,841	8,258,707
負債純資産合計	8,164,794	16,480,299

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	8,922,798	10,581,647
売上原価	7,086,902	7,780,622
売上総利益	1,835,896	2,801,024
販売費及び一般管理費	1,152,094	2,219,750
営業利益	683,801	581,273
営業外収益		
受取利息	11	380
受取配当金	1,131	991
為替差益	10,675	—
受取賃貸料	942	—
業務受託手数料	793	871
助成金収入	340	—
償却債権取立益	—	3,951
雑収入	1,751	2,853
営業外収益合計	15,645	9,046
営業外費用		
支払利息	47	709
為替差損	—	6,036
持分法による投資損失	—	922
助成金返還損	17,471	—
雑損失	2,769	262
営業外費用合計	20,288	7,930
経常利益	679,158	582,389
特別利益		
固定資産売却益	1,189	130
特別利益合計	1,189	130
特別損失		
固定資産売却損	447	—
固定資産除却損	6,858	189
事務所移転費用	—	44,232
その他	—	4,498
特別損失合計	7,306	48,920
税金等調整前中間純利益	673,040	533,599
法人税、住民税及び事業税	129,290	155,099
法人税等調整額	118,814	39,115
法人税等合計	248,105	194,215
中間純利益	424,935	339,384
非支配株主に帰属する中間純利益	—	15,405
親会社株主に帰属する中間純利益	424,935	323,978

(中間連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	424,935	339,384
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,522	19,502
その他の包括利益合計	△7,522	19,502
中間包括利益	417,412	358,886
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	417,412	343,481
非支配株主に係る中間包括利益	—	15,405

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

連結の範囲の重要な変更

当中間連結会計期間より、当社を株式交換完全親会社、株式会社SKIYAKIを株式交換完全子会社とする株式交換に伴い同社の株式を取得したことにより、同社及び同社の子会社である株式会社ロックガレージを連結の範囲に含めております。

なお、当該連結の範囲の変更は、当中間連結会計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与えることが見込まれます。影響の概要は、連結貸借対照表の資産合計及び負債合計の増加、連結損益計算書の売上高等の増加になると考えられます。

また、当社を吸収分割会社、株式会社スペースシャワーネットワーク(株式会社スペースシャワーネットワーク分割準備会社より商号変更)を吸収分割承継会社とする吸収分割に伴い、子会社である株式会社スペースシャワーネットワークの重要性が増したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更に関する注記)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)を当中間連結会計期間の期首から適用しております。これによる中間連結財務諸表への影響はありません。

(株式会社SKIYAKIの連結子会社化に伴う会計方針の変更)

ファンクラブ事業を営む連結子会社コネクトプラス株式会社は、当該事業を共同で運営する企業に分配すべき受取対価について、従来は売上原価に含めて表示しておりましたが、当中間連結会計期間より、売上高から控除して表示しております。これは、類似事業を営む株式会社SKIYAKIの連結子会社化を契機としてグループ会計方針の統一を行ったことに伴い、事業の実態をより適切に表示するために変更を行ったものです。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度末については遡及適用後の中間連結財務諸表となっております。この結果、遡及適用を行う前と比べて、前中間連結会計期間の売上高及び売上原価はともに103,803千円減少しております。売上総利益、営業利益、経常利益及び税金等調整前中間純利益に対する影響はありません。

なお、セグメント情報に与える影響については、「(セグメント情報等の注記)」に記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年4月1日付で、当社を株式交換完全親会社とし、SKIYAKIを株式交換完全子会社とする株式交換を行いました。これに伴い、普通株式8,217,851株を発行したため、資本準備金が4,051,400千円増加しました。

また、同日付で、2024年2月13日開催の当社取締役会決議に基づき、増加した資本準備金をその他資本剰余金に振り替えました。

以上の結果、当中間連結会計期間において資本剰余金が4,051,400千円増加しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	コンテンツ	ソリュー ション	計		
売上高					
メディア売上	1,421,180	—	1,421,180	—	1,421,180
ライブ・コンテンツ売上	2,467,742	—	2,467,742	—	2,467,742
エンタテインメントカフェ売上	1,389,779	—	1,389,779	—	1,389,779
ファンプラットフォーム売上	—	153,963	153,963	—	153,963
ディストリビューション売上	—	2,350,556	2,350,556	—	2,350,556
クリエイティブソリューション 売上	—	1,139,576	1,139,576	—	1,139,576
顧客との契約から生じる収益	5,278,702	3,644,096	8,922,798	—	8,922,798
外部顧客への売上高	5,278,702	3,644,096	8,922,798	—	8,922,798
セグメント間の内部売上高又は 振替高	308,928	10,776	319,705	△319,705	—
計	5,587,630	3,654,872	9,242,503	△319,705	8,922,798
セグメント利益	658,968	4,220	663,188	20,612	683,801

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等20,612千円であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとのセグメントEBITDAは次のとおりであります。

	コンテンツ	ソリュー ション	計	調整額	合計
セグメント利益	658,968	4,220	663,188	20,612	683,801
減価償却費	106,325	26,080	132,405	—	132,405
のれんの償却額	—	—	—	—	—
セグメントEBITDA (注) 4	765,293	30,300	795,593	20,612	816,206

4. 各報告セグメントのセグメントEBITDAは、セグメント利益に減価償却費及びのれんの償却額を加えた金額であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	コンテンツ	ソリューション	計		
売上高					
メディア売上	1,357,112	—	1,357,112	—	1,357,112
ライブ・コンテンツ売上	2,791,529	—	2,791,529	—	2,791,529
エンタテインメントカフェ売上	1,608,503	—	1,608,503	—	1,608,503
ファンプラットフォーム売上	—	1,702,533	1,702,533	—	1,702,533
ディストリビューション売上	—	2,059,259	2,059,259	—	2,059,259
クリエイティブソリューション 売上	—	1,062,708	1,062,708	—	1,062,708
顧客との契約から生じる収益	5,757,145	4,824,501	10,581,647	—	10,581,647
外部顧客への売上高	5,757,145	4,824,501	10,581,647	—	10,581,647
セグメント間の内部売上高又は 振替高	332,894	47,089	379,984	△379,984	—
計	6,090,040	4,871,591	10,961,631	△379,984	10,581,647
セグメント利益	539,779	74,053	613,833	△32,559	581,273

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等△32,559千円であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとのセグメントEBITDAは次のとおりであります。

	コンテンツ	ソリューション	計	調整額	合計
セグメント利益	539,779	74,053	613,833	△32,559	581,273
減価償却費	132,607	155,194	287,802	—	287,802
のれんの償却額	—	46,411	46,411	—	46,411
セグメントEBITDA(注) 4	672,387	275,659	948,046	△32,559	915,487

4. 各報告セグメントのセグメントEBITDAは、セグメント利益に減価償却費及びのれんの償却額を加えた金額であります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当中間連結会計期間より、株式交換により株式会社SKIYAKIの全株式を取得したことにもない、新たに同社を連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当中間連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、ソリューションセグメントにおいて7,676,821千円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

当中間連結会計期間より、株式会社SKIYAKIとの経営統合を機に事業ポートフォリオの再構築を行い、報告セグメントを従来の「メディア」、「ライブ・コンテンツ」及び「ソリューション」の3区分から「コンテンツ」及び「ソリューション」の2区分に変更しております。このため、前中間連結会計期間のセグメント情報についても、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

報告セグメント	主な事業内容	
コンテンツ	イベント事業	「SWEET LOVE SHOWER」「POP YOURS」等の主催イベントの企画運営
	ライブハウス事業	ライブハウス「WWW」「WWW X」の運営
	アーティストマネジメント事業	当社所属アーティストのマネジメント
	レーベル・エージェント事業	音源制作、音楽出版管理、エージェント業務など
	有料放送事業	「スペースシャワーTV」の編成、制作など
	オンデマンド事業	「スペースシャワーオンデマンド」の運営
	エンタテインメントカフェ事業	「あつとほおーむカフェ」の運営
ソリューション	プラットフォーム事業	「Bitfan Pro」「Bitfan」の開発運営
	ファンクラブ事業	アーティスト等のファンクラブ/ファンサイトの運営
	EC・MD事業	グッズの企画制作やECサイト「スペシャストア」の運営
	アライアンス事業	協賛広告の獲得や他社とのコンテンツの共同制作など
	ディストリビューション事業	音楽配信やパッケージを通じた楽曲等の流通
	映像制作事業	音楽ライブの映像収録やミュージックビデオの映像制作など

また、「(会計方針の変更に関する注記)」に記載のとおり、ファンクラブ事業を営む連結子会社コネクトプラス株式会社は、当該事業を共同で運営する企業に分配すべき受取対価について、従来は売上原価に含めて表示しておりましたが、当中間連結会計期間より、売上高から控除して表示しております。

この変更に伴い、前中間連結会計期間については遡及適用後の数値を記載しており、遡及適用前と比較して前中間連結会計期間におけるソリューションセグメントの売上高は103,803千円減少しましたが、セグメント利益に与える影響はありません。

なお、これまで報告セグメントのセグメント利益は経常利益ベースとしていましたが、営業外損益項目の重要性が乏しくなったことから、当中間連結会計期間より、報告セグメントのセグメント利益を営業利益ベースに変更しております。このため、前中間連結会計期間の報告セグメントのセグメント利益についても、営業利益ベースに変更しております。

#### (収益分解区分の変更)

株式会社SKIYAKIとの経営統合を機に収益管理区分の見直しを行った結果、当中間連結会計期間より、顧客との契約から生じる収益を分解した情報に係る収益分解区分を従来の「メディア売上」、「ライブ・コンテンツ売上」、「ソリューション売上」、「映像制作売上」の4区分から、「メディア売上」、「ライブ・コンテンツ売上」、「エンタテインメントカフェ売上」、「ファンプラットフォーム売上」、「ディストリビューション売上」、「クリエイティブソリューション売上」の6区分に変更しております。

この変更に伴い、前中間連結会計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報についても変更後の収益分解区分により作成したものを記載しております。

#### 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報 (固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

#### (のれんの金額の重要な変動)

当中間連結会計期間において、株式交換により株式会社SKIYAKIの全株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、ソリューションセグメントにおいてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当中間連結会計期間においては1,299,511千円であります。

#### (重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等に関する注記)

I. 取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社SKIYAKI

事業の内容 プラットフォーム事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社と株式会社SKIYAKIが、経営統合により、両社の競争優位性(強み)と経営課題(弱み)が相互補完関係にあることを認識し、これまで以上に有益なサービスや、魅力的なコンテンツの提供を実現できるとの判断のもとで、コンテンツとテクノロジーをかけあわせた、これまでにない新しいエンタテインメントカンパニーとして、持続的な発展を実現するため。

(3) 企業結合日

2024年4月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式交換

(5) 結合後企業の名称

スペースシャワーSKIYAKIホールディングス株式会社

(2024年4月1日付で「株式会社スペースシャワーネットワーク」より商号変更)

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が株式交換により議決権の100.0%を取得したことによるものです。

2. 中間連結会計期間に係る中間連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2024年4月1日から2024年9月30日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	当社普通株式	4,051,400千円
取得原価		4,051,400千円

4. 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付した株式数

(1) 株式の種類別の交換比率

	当社 (株式交換完全親会社)	株式会社SKIYAKI (株式交換完全子会社)
株式交換に係る割当比率	1	0.76

(2) 株式交換比率の算定方法

当社はトラスティーズFAS株式会社を、株式会社SKIYAKIは山田コンサルティンググループ株式会社を、独立したファイナンシャル・アドバイザー及び第三者算定機関として選定しました。

両社は、第三者算定機関から受領した株式交換比率の算定書、法務アドバイザーの助言等も踏まえて、株式交換比率について、検討、交渉、協議を重ねた結果、最終的に株式交換比率は妥当であり、それぞれの株主の利益に資するとの判断に至りました。

(3) 交付した株式数

当社普通株式：8,217,851株

5. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 54,006千円

6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

1,299,511千円

(2) 発生原因

主として株式会社SKIYAKIがソリューション事業を展開することによって期待される超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

14年間にわたる均等償却

7. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産 4,084,134千円

固定資産	2,219,253
資産合計	6,303,388
流動負債	2,767,577
固定負債	783,922
負債合計	3,551,499

## II. 共通支配下の取引等

### 1. 取引の概要

(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

メディア事業、ライブ・コンテンツ事業、ソリューション事業（グループ経営管理事業、資産管理事業及び不動産賃貸事業を除く当社が営んでいた一切の事業）

(2) 企業結合日

2024年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を吸収分割会社とし、株式会社スペースシャワーネットワーク分割準備会社（2024年4月1日付で株式会社スペースシャワーネットワークに商号変更）を吸収分割承継会社とする吸収分割

(4) 結合後企業の名称

吸収分割会社	吸収分割承継会社
スペースシャワーSKIYAKIホールディングス株式会社 (2024年4月1日付で「株式会社スペースシャワーネットワーク」より商号変更)	株式会社スペースシャワーネットワーク (2024年4月1日付で「株式会社スペースシャワーネットワーク分割準備会社」より商号変更)

(5) その他取引の概要に関する事項

吸収分割により当社の事業に関する権利義務等を吸収分割承継会社に承継させた結果、当社はグループ経営管理事業、資産管理事業及び不動産賃貸事業を行う持株会社体制へ移行しております。

### 2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(収益認識に関する注記)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等の注記)」に記載のとおりであります。